

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1470501154	事業の開始年月日	平成17年9月1日
		指定年月日	平成17年9月1日
法人名	社会福祉法人 育生会		
事業所名	たまてばこ		
所在地	(〒232-0066) 神奈川県横浜市中区六ツ川2丁目107番43号		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員 通い定員 宿泊定員	名 名 名
	☒ 認知症対応型共同生活介護	定員計 ユニット数	18 名 2 ユニット
自己評価作成日	平成22年2月1日	評価結果 市町村受理日	平成21年5月14日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

平成21年10月4日（日）において、初めての試みでバザーを開催した。地域自治会よりテント、テーブル、イスをお借りし、ボランティアの方と担当職員で手作りクッキーを焼いて販売した。また同日開催した他のボランティアのトーンチャイム演奏会では、喫茶ルームを作り、ご利用者様及びご家族様、そして地域の方々がお茶を飲みながら演奏を楽しまれていた。ご利用者の一部の方も、バザーの売り子をされたりと、小規模なバザーであったが、和やかに開催することが出来たと思われる。職員の反省会やアンケート調査では、毎年何かご利用様が楽しめることをやりましようという結果が出たので22年度も計画を立てる予定である。地域密着サービスならではのことで、少しずつではあるが、地域の皆様方のご理解を頂き、交流を深めて行きたいと願っている。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	神奈川県横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成22年 2月22日	評価機関 評価決定日	平成22年4月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【立地条件・施設・設備】 当ホームは、京浜急行弘明寺駅からバスで5分程の住宅街にある。近所には有名な弘明寺観音や下町情緒が残る商店街、緑化センターや子供植物園がある。目の前を横浜横須賀道路や平戸桜木道路が通り、近隣のＪＲの駅からも複数のバス路線があり交通の便がよい。建物は3階建てで、1階を同法人の小規模多機能型居宅介護、2、3階を本事業所が使用している。館内は、バリアフリーで、廊下、浴室・トイレには手すりが付けられ安全面に十分な配慮がなされている。広い屋上があり、花や野菜の栽培、バーベキューや盆踊り、花火見物を楽しめるスペースになっている。 【法人グループ内の連携】 1階の小規模多機能型居宅介護事業所とは、合同で運営推進会議や防災訓練を行い、お互いの利用者や家族と馴染みの関係を作り、事業所間の職員異動や緊急時のバックアップ体制を整えている。また、グループ内には、特別養護老人ホームや病院もあり、介護・医療面での支援体制が充実している。 【地域の一人としての取り組み】 お茶、書道、体操など様々なボランティアとの協力や、地域住民を招待してのバザーの開催、在宅高齢者を持つ家族の集いにおいて、認知症の高齢者の方との接し方の指導や相談、高校生との交流会など、地域で必要とされる活動に積極的に協力をして、ホームへの理解を求めながら、社会的役割を果たす努力をしている。 【家族に対する報告】 家族来訪時の報告はもとより、毎月1回「生活のまとめ」として利用者の日々の暮らしぶりを中心に、介護、看護の記録、通院記録、服薬の状況などを事細かに記入して、預かり金の収支もあわせて家族へ郵送している。季刊で発行する「たまてばこだより」は、利用者の外出時の楽しそうな様子や、ホームで収穫した野菜などを写真入りで掲載し、さらに、職員の異動の報告や新人職員の紹介もあり、家族に安心と信頼を与えている。

【密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	たまてばこ
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基本とし、地域密着型サービスとしての理念を職員全員の意見から吸い上げ、施設単位での理念を作り、実践に努めている。	利用者が地域の中でその人らしく生活してほしいという視点で作った理念である。名札の裏に理念とそれを具体化した「職員心得」を携帯し、日々のケアの指針としている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員及びご利用者様を含め、外出時等、近隣住民への挨拶を心がけたり、施設内でのイベント企画を実施する際も、ご利用者様と職員が一緒に地域住民の方へイベント参加のお誘いを行い交流に努めている。	自治会に加入し、夏祭りなどの地域の行事に参加している。昨年は自治会からテント等の備品を借用してバザーを開催し、地域住民やボランティアとの交流をより深めることができた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	在宅で暮らす認知症高齢者をもつ家族の集いに参加し、施設での実践や取り組み等をお話させて頂いた。また、個々の家庭での困っていることや介護支援サービスの内容など説明し対応に努めた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月で会議を開催出来ていないが、極力出来るよう努めたい。実施の際は、施設の状況報告を行い、ご意見やアドバイスを頂き、向上出来るよう努めている。	6か月に1回の開催を定例としている。事業所の状況や外部評価結果などを報告して話し合いをしている。継続的な課題である防災について、地域の理解と支援を得られるように働きかけている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区から要望があり、近隣地域の福祉系高等学校学生と区担当者にご利用者様との交流会を行った。また、施設の概要や館内見学、複合施設（小規模多機能居宅介護）であることなど説明し、対応に努めている。	要介護認定更新時の機会等にパンフレット、「たまたばこだより」を持参し、現場の実情を話しながら担当者と情報交換を行っている。ケアプラザ主催の認知症・防災などの学習会に参加している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新規職員の新任研修や館内研修及びスタッフ会議等で、身体拘束をしないケアについての研修機会を設け、業務中でのサービス提供に際しても、考え方を共有出来るよう取り組んでいる。	法人として「身体的拘束等行動制限についての取扱要領」を用意し、方針を詳細に明文化している。職員は様々な研修を通して身体拘束の内容と弊害を認識している。ユニットドア、玄関は施錠をせずに、見守りやセンサーで安全を確保している。家族に対しても、事業所の方針を説明して理解してもらっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	新規職員の新任研修や館内研修及びスタッフ会議等で、虐待の防止についての研修機会を設け、業務中でのサービス提供に際しても、考え方を共有出来るよう取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新規職員の新任研修や館内研修及びスタッフ会議等で、権利擁護についての研修機会を設け学びにつなげている。個々にその必要性がある時も関係者と十分に話し合いを行い活用出来るよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時に、契約内容（解約も含む）を十分に説明し、ご理解を頂いた上で、締結している。また、改定の際は、家族会を通して十分に説明を行いご理解・了承を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設入口に意見投書箱を設置し、運営に関する意見及び提案を行える体制を取っている。また、投書内容については、常務理事を含め、管理者が運営会議上で検討する機会を設けている。検討事項については、館内会議内においてスタッフに周知されている	苦情対応窓口には、管理者を担当者として配置し、迅速かつ適切に対応する体制を整えている。家族会、バザー等の家族参加の行事時や、家族の来訪時には積極的に利用者の様子を伝え、気軽に意見や要望を言い出しやすい機会を作っている。意見や要望等はサービスに反映している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設入口に、投書箱を設置し、運営に関するご意見及び提案を行える体制を取っている。また、法人の全体会議や当施設内の全体会議・館内会議・スタッフ会議においても意見や提案を出しやすいように配慮している。	スタッフ会議では活発に意見の交換を行っている。昨年は管理者が個人面接を行い、職員ごとにそれぞれの目標を話し合う中で、要望や意見を聞く機会を持った。ユニット間の異動も職員の意見を参考に検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に、職員一人ひとりの把握に努め、働きやすい職場環境の整備に力を入れている。給与水準・役職への導き等についても考慮し、法人事務局へ相談・申し入れを行い、スタッフの力量を低下させないように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常に、職員一人ひとりの力量を把握し、状況に応じては、面談の機会を設け双方で確認し合っている。また、内外研修に参加させ、スキルアップへの向上につながるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会への加入、地域包括支援センター・他施設の法人等との連絡を密にし、情報ネットワークを拡張して、サービスの質を高めるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	電話相談を受けた後、施設見学時において、ご本人の希望や困っていることがないか相談援助を行い、ある程度の共同生活上の決まりはあるが、自分らしく安心した生活が送れるように支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話相談を受けた後、施設見学時において、ご家族の不安や要望を十分に把握して、地域密着サービスとしての地域の中で安心して暮らせる支援を行うことに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人及びご家族様の相談内容を十分に見極め、その時の状況に合ったサービス利用や他サービスへの紹介等も含め支援できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者との触れ合いにおいて、場の感情を共有する事を重んじて対応に努めている。ご利用者様がこれまで担ってきた手作業の技術を学び、ご利用者様と共に作業にあたっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	協力病院機関以外のこれまでの馴染みのかかりつけ医等への受診、館内行事や各個人単位の外出等において積極的に家族に協力して頂き、ご本人との関わりを持って頂けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣地域からの入居が多数である為、入居前の民生委員やご友人の訪問、故郷のご親戚からの電話等も取り次ぎ、これまでの関係が途切れないよう努めている。また、手紙を書く機会を設けている。	利用者の生活史やなじみの人・場所を把握し、ホームに入居した時の転居あいさつや年賀状、手紙等を出す支援をしている。利用者がなじみの商店街に外出した際に、20年ぶりに偶然知人と再会したことがあった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者各々のADL状況を把握した上で、レクリエーションや共通の話題を提供し出来るだけ多くの利用者が場に参加して頂けるよう努めている。また、コミュニケーション困難なご利用者様に対しては、職員が間に入りコミュニケーションが円滑に出来るよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ入所されたり、サービスが終了した場合であっても、施設内のイベント開催を行う時はお誘いをし、出来るだけ参加協力を頂き、ご家族様との関係を継続出来るよう努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	契約前の段階よりセンター方式によるアセスメントを用いてご利用者様の意向の把握に努めている。	日頃から利用者の行動の意味を押し量りながらのケアを心がけているが、意思疎通の可能な利用者には常に本人の意向を聞き取るようにしている。職員を担当制にして、利用者や家族との関係を築き、明確な希望や意向の把握ができるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約前の段階よりセンター方式によるアセスメントを用いている。グループホームでは、これまでの生活歴や馴染みの暮らし方等の把握に努めている。		

()

	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	契約前の段階よりセンター方式を用いている。また、入居後の共同生活の場の暮らし方等についても不都合が生じていないか確認する。また、心身状態や残存能力を重視しながら現状把握に努める。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式によりご本人及びご家族、その他関係者（居宅介護支援専門員）から吸い上げた情報から介護支援専門員及び居室担当者が施設サービス計画を作成し、それに基づいて介護計画を作成している。	職員からのヒアリングや担当者が利用者の日頃の状況を記録した「生活のまとめ」、「ケアプラン実施表」などを用いモニタリング、月に1度のケアカンファレンスを行っている。利用者の現状と介護計画がかみあっているか評価をして見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子やケアの実践内容については、業務日誌や個別ケース記録、ケアプラン実施表に記入し、特変状況については、職員間で連絡ノートに記載し状況把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	複合施設としての特性（小規模多機能型居宅介護）を活かし、職員間での協力体制を取り柔軟な対応が出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターである地域ケアプラザや自治会からの情報の提供を受けたりして、ご利用者様が安心して暮らせるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	本人及び家族等の希望を受け、希 望者には入居後も馴染みのかかりつ け医へ受診をご家族の協力を得なが ら実施している。基本的には、入居 後は協力医療機関からの隔週の往診 を受けている。また、地域訪問歯科 の協力を得ながら、健康維持に努め ている。	利用者の2、3人が入居以前からの認知 症専門医や歯科のかかりつけ医を継続 して受診している。系列法人の病院が 協力医療機関となっており、通院の際 は事業所職員が同行している。「受診 時報告書」を作成して、家族・職員・ 病院間で情報の共有を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	法人本体の看護師と医療連携をとり 指導及び援助を受けている。複合 の小規模多機能型居宅介護の看護師 （非常勤）が従事している為、日常 の健康管理への相談や指導、援助も 受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。又は、そうした場合に備え て病院関係者との関係づくりを行っている	退院時におけるMSW及び担当医 とのムンテラに参加する等、病院関 係者との情報交換や相談に努めてい る。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	契約時の段階で、「重度化した場 合における対応に係わる指針」に基 づきご本人及びご家族に説明し、重 度化した場合における同意書に同意 を受けた上で職員及び関係者で方針 を共有している。	入居時に利用者や家族の意向に沿って 支援することを説明し、話し合った上 で意向を確認し方針を共有している。 事業所は、意向を尊重しつつ、家族、 医療機関の協力を得て、現状でできる 最大限の支援をする意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全て の職員は応急手当や初期対応の訓練を定期 的に行い、実践力を身に付けている	現段階では、応急手当、初期対応 の訓練を定期的には行っていない が、法人での救命講習研修に参加し ていただき実践力を向上するように 努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	館内において、概ね2ヶ月に1回昼夜想定での防災訓練を実施し、職員に周知している。また、地域からの協力体制を得られるよう調整をしている。	利用者とともに、2か月に1回、様々な想定での避難訓練を繰り返し行っている。来年度中には、スプリンクラー、自動通報装置を設置する予定である。備蓄はないが法人内の施設からの提供がある。運営推進会議の中で、災害時の協力支援を依頼した結果、自治会長からの賛同が得られ、災害時連絡網に加わってもらうことができた。	今後は、もう一歩進んで、地域住民の訓練への参加、災害時における具体的な協力体制等を構築する取り組みを期待したい。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の自尊心を傷つけない声かけや場面設定（排泄場面等）に心がけている。個人記録に関しては、書庫にて管理している。当日の記録等は、バインダーに挟み伏せて直接目に触れない様努めている。	職員心得の「利用者を目上の人として敬意をもって接します。」を実践し、特に声かけには注意を払っている。職員は、敬語を使いながらも、親しみやすく、やさしい語調で利用者と会話をしていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや願いを聞き自己決定、自己実現が出来るように働きかけた。（思い出の場所への外出や食べたい物の提供）意思表示の困難なご利用者様に関しては、時間をとり傾聴姿勢で接し自己決定出来るよう繰り返し説明するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	フローアーク清掃や居室清掃、レクリエーションを提供する時間等、全体での日課はあるが、自由参加となっている。当日の勤務体制にもよるが、突発的な外出等にも随時対応して利用者の希望に添えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	隔月で訪問理美容業者が来館する為、その際にご本人及びご家族様の希望により理容・美容サービスを受けていただきおしゃれを楽しんで頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食のみ主菜については、法人本体から調理済み食材の提供を受けている。食材の下ごしらえや汁の味見をする、階下の調理室に食材を取りに行く、配膳後の片付け、また、ベランダのプランターに植えた野菜を収穫し、調理して味わう楽しみをもっている。	朝食・夕食のメニューは利用者の希望を聞き取り作成している。時には一緒に食材の買い物に行っている。自分のペースで一人で食べることができるように、フォークや取っ手の付いたお椀を使うなど食器にも工夫をしている。職員は介助の必要がある方と同じテーブルを囲み、励まし、介助しながら食事をとっていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに関しては、法人本体の管理栄養士が作成した献立による昼食と設定量を参考にしている。食事量に関しては、その都度計測している。朝食、夕食に関しては、その設定量に基づいて計測している。水分量に関しては、定時水分提供時間（三食提供時、10時、3時のおやつ時、就寝時）を含め摂取量を計測し1日を通して確保出来る様にし、不足ぎみの場合も、職員で把握出来る様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声かけし、各居室にてご利用者にして頂いている。自力で困難な利用者には、職員が支援している。夜間においては、義歯を預かり洗浄剤につけ除菌・消臭を実施している。また、地域訪問歯科医に相談をし、指導、援助を受け個々の口腔ケアにあった支援をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、その方に合った取り組みを職員間で共有し援助している。また、排泄の失敗で気力の低下がある場合にも、きちんと受け止め、無理強いのケアにならないようご利用者様と職員との間で良い方法を見つけて対応できるよう努めている。	「食事の後はトイレに行く」ことを習慣化するなどして、1日の流れの中での排泄パターンを作り、利用者自らがトイレに向かえるように工夫をしている。一方で、利用者それぞれのサインを把握し、見守りやさりげない誘導をして、排泄の失敗が少なくなるような支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者に出来るだけ体を動かして頂く為に、体操を頻回に行っている。また、乳製品や食物繊維豊富な食材使用した食事提供を行っている。これらの取り組みをしても便秘が改善されないご利用者様に対しては、個別に往診の医師に相談し内服薬の処方を受けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	現時点の職員体制の観点から常時入浴出来る体制は困難であり、入浴時間、入浴日の指定をしてしまっているが、身体状況に対して適宜追加入浴を実施している。	入浴は、曜日を決め週に2回、14時から16時を原則としている。それ以外でも希望があれば個々に応じている。入浴したがない利用者には、時間を置いてから再度声かけをしたり、無理強いをせず翌日に改めて勧めるなどしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に屋外からの灯りを遮断して安眠できる居室状態を保つ為に、遮光入りのカーテンを使用している。また、各々の生活習慣を重視した上で、昼夜逆転や生活リズムが崩れない程度で休息の声かけをしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理一覧表を作成しており処方服薬内容の周知徹底をしている。薬が新しく処方されたり変更になった時は、速やかに職員で情報を共有し把握出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のご利用者様のADL及び残存能力に応じたレクリエーションや軽作業を提供している。また、植栽の世話や館内清掃、食事の片付け場面において各々の得意作業に参加して頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候及び当日の職員体制にもよるが、戸外への外出支援（主に買い物）を適宜実施している。	散歩や買い物には日常的に出かけている。外食デー、初詣、花見等、事業所行事としての外出の他に、「夢の実現」として利用者ごとに行きたい場所を聞き、個別の外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様それぞれの小口現金をご家族様より預かり、ご家族様の了解の上で、ご本人に千円単位で現金を所持して頂き買い物等の際に自由に使用出来るよう支援している。また、現金の取り扱いの困難なご利用者様には、職員が対応できるよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの電話及びご利用者様からご家族へ電話をかけたい等の要望がある場合は、フロアーにある電話を使用して頂いている。また、手紙についても、葉書の購入や投函も含めて支援している。		

	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃時や合間で空間に臭気が停滞しないよう適宜換気に努めている。また、共有部分の空調に関しては、ご利用者様の身体状況に応じて温度調整を実施している。空間の演出として、季節に合った掲示品の交換等で季節感の工夫を行い、楽しんで頂けるよう対応している。	居間や食堂は、程良い広さがあり、明るく清潔でくつろげる空間となっている。季節感を大切にして掲示物や装飾品を配置する工夫をしており、訪問時はお雛様を飾っていた。屋上には広いスペースがある。各フロアのベランダで野菜や花を栽培して利用者の楽しみのひとつとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	現時点では、食堂でのご利用者様の座席が決まっているが、新入所者様が入居した際は、座席替えに協力して頂き、他のご利用者様と馴染めるようにしている。他にソファを数箇所設置して、各々のご利用者様が安楽に過ごせる居場所が作れるよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、居室の範囲内で使い慣れた好みの家具の持ち込みを促している。居室内配置については、ご本人及びご家族様の意思を尊重した上で、転倒等の危険性に配慮した居室空間のお手伝いを居室担当者が中心になって実施している。	クローゼット、エアコン、防災・遮光のカーテンの他に、居室個々に洗面台があり便利である。たんすやベットなど使い慣れた家具が持ち込まれ、居室担当者が家族と相談しながらその人らしい居室づくりの支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各々の居室入口付近に、ご本人の居室であるか確認できる様表札を設置している。また、3ヶ所のトイレや浴室、洗濯場の表示をして理解できるように工夫をしている。共有部分においてもご利用者様の歩行の妨げにならない様、物品の設置等に十分配慮して自立した生活が送れるよう努めている。		

平成 21 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1470501154	事業の開始年月日	平成17年9月1日
		指定年月日	平成17年9月1日
法人名	社会福祉法人 育生会		
事業所名	たまてばこ		
所在地	(〒232-0066) 横浜市南区六ッ川二丁目107番43号		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	☒ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18 名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	平成22年2月1日	評価結果 市町村受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

地域交流として、地域の行事への参加や地域に向けての施設主催の行事を実施している。また、地域包括支援センターと連携を取り、情報交換をしている。 職員のスキルアップの為、厳しい人員配置の中からやりくりをして、研修に参加している。
--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名			
所在地			
訪問調査日		評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	たまてばこ
ユニット名	3階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念と職員からの意見を吸い上げた施設の理念を基に、ご利用者様本位のサービスを目指し、ご利用者様の要望を生活の中に取り入れる様に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出時に近隣の方と積極的に挨拶を交わしたり、地域との交流を深める為に、施設主催のバザーを開催した。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方へ理解して頂く為に、施設にご相談やご見学にいらっしゃった際に、施設の特徴等を説明すると同時に、認知症の方への支援についてお話させていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	細かく文章にして参加者に配布し運営状況を明らかにしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ケアマネジャーが研修等に参加し、施設職員に伝えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待防止と権利擁護の研修（勉強会）を定期的に行い、取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で再確認をし努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	担当医師・家族と連携を図り、出来る限りの支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時には、管理者とフロアリーダーが立会い、不安や疑問を尋ね、説明により理解して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会・運営推進会議で反映させている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議・館内会議・スタッフ会議で反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準や労働条件等に関して、全体会議等で常務理事から定期的に説明を受ける他、管理者が法人と職場環境や条件面で常時、調整を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務マニュアルを使用し、職員のペースに合わせ、業務内容を習得している。法人内外の研修を積極的に受ける様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域ケアプラザの研修等にケアマネジャー・管理者が参加。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その方のペースに合わせ、安心して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	課題点に順位を付け、ご家族様と共に順序立てて解決していく様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面会時や電話等にて情報交換して努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共感し合えるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報交換に努め築いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物や外出で行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションを通じて努めている。また、関わりの少ない方々と席を同じにし、交流して頂いたり工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡があれば対応し、お手紙等の遣り取りをしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の意向や不満を日常生活の中から探り、解決に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前住んでいた居室と似ている環境を作っている。食生活においても好物等を取り入れている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化に気づき、ケアプランを通しケアしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式によるアセスメントを使用し、その情報からケアに係わる全ての職種がケアプランの作成に参加している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各記録を元に、職員間で情報を共有し、対応（ケア）している。また、記録やスタッフ会議等を元にモニタリングをし、介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援を実施している。複合施設としての特性（小規模多機能型居宅介護）を活かし、職員間での協力体制を取っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域（自治会）や近くの地域ケアプラザ等と交流を図り、地域の情報を得ている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診を実施し、医師より助言・指導を受けている。また、今までのかかりつけ医である専門医への受診を継続し、情報提供と医師からの指導を受けている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護師を配置し、日常の健康管理の指導及び援助を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医・家族と連絡を取り合い、退院時のこれからの事等を話し合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様には、口頭による説明と書類を取り交わして理解して頂き、重度化した時の事を考え、対応方法をケアマネジャー及び管理者と協同して支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急病時には、緊急時対応表を用い実践している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	概ね2ヶ月に1回程度で避難訓練を実施している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に応じて、言葉遣いや会話内容に気を付けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決定せず、利用者様に選択して頂くよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	皆様の体調に合わせ、その方のペースで支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洗面後、可能な限り、洋服選びをして頂いている。好みの色や形等を把握し、買い物の参考にしている。ヘアカットの時は、ご自身でスタイルの注文をして頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や後片付け等、その方が得意とする家事作業をお願いしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好み・体調・病歴を職員が把握し、水分チェック表を用いて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方は声かけ、見守りを行い、介助の必要な方へは職員が実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を活用し、カンファレンスを行い、対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や食事で予防し、便困の方は処方薬を服用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	現時点で入浴の曜日は決まっているが、テレビ番組を楽しまれている時等、終了するまで入浴を待つ等、その方のペースに合わせている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	清潔な環境づくりに心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をスタッフが周知し、カンファレンスで副作用等の情報交換をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に合った支援を体調に合わせて行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、体調やADLの違いで多くの外出は出来ていないが、館内行事に参加している。買い物は、その都度行う。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る方がいないので施設管理となっているが、買い物（店）での支払いをする事もある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々要望に応じて支援している。（年賀状等）		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゴミ箱の設置等清潔を保ち、混乱をまねかない様に、家具や物の配置に配慮している。また、空調・湿度にも気を付けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの位置を配慮し、工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様と話し合い、使い慣れた物を利用し、工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一緒に行動する事から知って頂く努力をしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームたまたまばこ

作成日 22年 4月 21日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	火災や地震、水害時の災害時に備えて、近隣地域との協力体制が整えるよう努めたい。	地域との連携体制の強化	次回、運営推進会議にて確認し、8月に実施する総合防災訓練に近隣地域の方にも参加要請し協力を得る。	6ヶ月
2	7	職員を育てる取り組みについて、人材不足の時期もあり、施設内外研修の機会の確保が不十分であった為、スキルアップの向上につながるよう努めたい。	内外研修の強化	H22年4月より、年間研修計画及び、月1回のフロアミーティングにおいても研修を実施し、スキルアップを目指すと共に質の向上につながるよう取り組む。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

